

『明るい未来へ』

多久市立東原産舎東部校 6年 倉 富 莉 緒

私の一番下の弟は障がいをもっています。私達とちがって話すことができません。ある時、テレビで障がいをもっている人のことがあっていました。テレビに出ていた障がいをもっている人は楽器でえんそうしたりして楽しそうにしていました。そんなすがたを見て私はすごいなと思いました。障がいをもっている人は私達とちがうところがあって気にしてそうなのに自分の障がいを受けとめて、笑顔で過ごしていたところがすごいと思ったところです。私の弟も毎日笑顔で過ごしています。その笑顔ですごく私も楽しいきもちになります。弟は話せなくても毎日が楽しそうだけど何かしたいときに話せないのはすごくつらいことだと思います。私が弟みたいに話せなかったらと思うと毎日話せなくて伝わらないから自分がいやになってしまいそうだと思います。テレビに出ていたある男の子はお出かけすると見た目でもわりの人から冷たい目で見られたり、何か言われたりしたそうです。最初は言われて落ちこんでいた男の子だったけれどお母さんに心配をかけたり、悲しませたりしたくないという思いで前向きになっていったそうです。私はこの男の子が見た目でも冷たい目で見られたり、何か言われたりすることがかわいそうだと思います。自分の見た目が障がいでそうなりたくてそうなったわけじゃないのに言われるなんておかしいと思います。障がいを持っている人も本当は私達みたいになりたかったはずです。だからこそ私は相手のことを考えるということと、障がいをもっている人のことも理解するということが大切だと思います。悪口は障がいを持っている人だけではなく、私達のような

障がいを持っていない人にも言うてはいけません。言ったほうが何も思わなくても言われたほうは心が傷つき、悲しい思いをしてしまいます。そんなときにまわりの人が悲しい思いをしている人を見つけること、悪口を言われ、悲しい思いをしている人がまわりの人に話すということ、どちらも難しいことです。だから相手がどんな気持ちになるかを考えて話すことで悪口を言われて悲しい思いをする人が減ってくると思います。障がいをもっている人のことを理解することは障がいをもっている人がこんな障がいをもっているということを受けとめていくことが理解するということにつながると思います。自分とちがうという障がいをもっている人を理解することは少し時間がかかることかもしれませんが。でも、障がいを受けとめることで関わり方が少しずつ分かってくると思います。相手のことを考えること、障がいをもっている人のことも理解するということが社会を明るくするということに少しはつながるのではないかと思います。そして私は障がいをもっている弟のことを今よりもっと考えていきたいと思っています。